

茨木 保 (著)
まんが 医学の歴史

木村政司
サイエンティフィック・イラストレーター

日本歯科大学新潟生命歯科部に、日本で唯一の医の博物館がある。ここは医学の歴史において残された貴重な古医書や浮世絵、医療器具、道具など約 5,000 点が展示、保存されている。この博物館の特徴は、医の歴史を眺めているうちに、見終わる頃には医の文化がみえてくることだ。

『まんが 医学の歴史』は、医の歴史が面白おかしく読み取れるだけでなく、偉人たちが伝えた貴重な遺産と、関わった人々の情熱にグイグイと引き込まれる。そういう意味では表現は違うが、医の博物館と本書の感動には、似たところが感じられる。

科学は、同時代の科学者たちの火花の散らし合いで発展してきた。コンプレックスや嫉妬、怒りや悲しみを乗り越えたところに科学の発展があったと言っても言い過ぎではない。

もうひとつ大切なことは、医学

にとってノーベル賞を受賞する研究成果だけが全てではないということだ。科学離れが騒がれてもうずいぶん経つが、いまだに深刻な問題であり、決して他人事ではない。これは学校教育に限らず、社会全体に問題があることは間違いない。この国の科学技術力は、人々の科学力向上にかかっている。このことを意識して書かれたかどうかは問題ではなく、この本が広く一般、学生、教師、医師、研究者などに読まれることを心から願う。漫画はもはや日本が世界に誇れる文化である。医の探究なくして人類の発展はなかったし、人間が自然の謎にどこまで迫ったかということもまた好奇心を駆り立てる問いであり、文化である。

著者の茨木保氏は婦人科医でありながら、漫画家である。漫画という手法で書き上げたことにより、偉人たちのストーリーが著者の感動を通してそのままヴィジュアル

に伝わるパワーに共感する。そういう意味では、本書は医学史曼陀羅と言ってもいい。

古代ギリシャの医神アスクレピオスの杖には知恵と神秘の象徴である一匹の蛇が絡まり、伝令の神ヘルメスの杖には、医と薬の象徴である 2 匹の蛇が絡まっているとされている。いずれも医の象徴として有名だが、2 匹の蛇の方は「サイエンスとアート」の調和を表しているとも言われている。サイエンスが技術なら、ここというアートとは、幸福と富裕を目指す叡智のことである。また、蛇は何度も脱皮して若返ることから再生と不死身のシンボルとされてきた。生きものの知恵からイメージし強い連想へと駆り立てる表現は、まさにアートとっていいだろう。

本書は、このヘルメスの杖に絡まる 2 匹の蛇のように、サイエンスとアートの調和が見事に日本の科学リテラシーの普及に貢献し、医学の知識やものの見方を世代間に継承する方法として、力を授けてくれるものであると確信する。

●A5/頁 356

定価 2,310 円 (本体 2,200 円 + 税 5%)

[ISBN978-4-260-00573-9]
医学書院 刊